

# ～最新技術の活用による鳥獣被害対策等実証事業～

## (重点支援地区) 小国町市野沢地区〔令和3年度実施地区〕

### ■ 実施体制

- 実施主体：市野沢地区住民、耕作者
- アドバイザー：古谷 益朗 氏  
(野生生物研究所ネイチャーステーション)

### ■ 地区のプロフィール

- 地区内の戸数：5戸 耕作者3戸
- 主な被害作物：水稻等（令和2年度被害面積500a）
- 主な加害鳥獣：イノシシ、ニホンザル



### 1. 取組のきっかけ

- 市野沢地区は稲作を中心とする農村集落であるが、令和2年度から、イノシシによる圃場の掘り起こし被害が急激に拡大し、今後水稻被害が増加することが懸念された。
- 今後も営農を続けていくために、地区の環境点検や鳥獣の生息状況を踏まえた上で、国や県の支援制度をフル活用して、総合的な被害防除や環境整備に取組むこととなった。
- 環境点検や鳥獣の生息状況調査については、ドローン調査を活用し労力の省力化について検証する「最新技術の活用による鳥獣被害対策等実証事業」を活用することとなった。

### 2. 取組の内容

- 関係者による事前打ち合わせ  
地域住民、アドバイザー、県、町職員が集まり、市野沢地区の被害の現状や今後のスケジュール等について打ち合わせを行った。
- 第1回ドローン調査  
地区周辺において、集落環境点検（昼間の静止画）及び生息状況調査（夜間赤外線カメラによる動画撮影）を実施した。生息状況調査でイノシシは撮影されなかったが、河川周辺でニホンジカが撮影された。
- 先進地区視察(町単独事業)  
米沢市山上地区の現地視察を行い、地域ぐるみでの鳥獣被害対策の取組みについて学んだ。
- 第1回研修会  
国の交付金を活用して整備した電気柵の点検等を現地で実施した。
- 緩衝帯整備(県の荒廃森林緊急整備事業)  
ドローン調査の結果を踏まえて、水田周辺の刈払いを実施した。
- 第2回ドローン調査  
効果検証のため、再度、ドローンによる集落環境点検と生息状況調査を実施した。集落周辺では、鳥獣被害の痕跡は見当たらず、夜間も鳥獣の姿は撮影されなかった。
- 第2回研修会  
生息状況調査で撮影されたニホンジカや今回撮影されなかったものの今後も被害発生が懸念されるイノシシについての研修会を開催予定



ドローン調査の様子



現地研修会の様子

### 3. 課題と今後の展望

- 電気柵を適切に維持・管理していく。
- 夜間赤外線カメラで鳥獣が複数撮影された河川周辺については、人目が届くように管理をしていく。